



TITLE:

創立三十五周年を迎えて

AUTHOR(S):

山口, 巖

---

CITATION:

山口, 巖. 創立三十五周年を迎えて. ことばの構造とことばの論理: 山口  
巖教授停年記念論文集 1998: 788-789

ISSUE DATE:

1998-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65768>

RIGHT:

「京大生協のあゆみ 1949→1985」(京都大学生協同組合) 1985年10月15日。

### 創立三十五周年を迎えて

私たちの生協は、京都大学に学び、働き、教え、そして研究する人々の協同の力によって生まれ、育まれて来ました。そしていま、組合員各位の支持と参加に依拠しながら、勉学や研究のみならず、それをよりよく支える文化的で健康な生活の維持と向上に寄与するために、学園に広く深く根ざす生協作り、大学にも組合員にも頼りにされる生協作りを目指して努力を続けています。

未だ不十分とはいえ、曲りなりにも現在の状態に到達できたのは、組合員の広汎な支持と大学の深い理解があつてのことではありますが、それと同時に私たちは、京都帝大消という戦前の先駆的な試みをはじめとして、多くの先輩達が営々として築き上げた伝統の重みを想わざるを得ません。そしてそれは、恐らくは、自由の気風に満ち溢れた我が京都大学の伝統の、一つのあらわれであるように思われます。

しかしながらこれらの歴史を繙くとき、私たちの生協の歩みも決して平坦なものではなかったことを、私たちは知ることができます。さまざまな危機や、生協というものについての考えの未熟さや誤りなどが時にみられたことも、否定できない事実であろうかと思われます。そしてそれらの不充分さや誤りが、ほとんど常に組合員の要求から離れ、独りよがり陥ったときにはじまったこと、また組合員の立場に立ち帰ったとき、外ならぬ組合員自身の力でそれが克服されていったことも、私たちの生協の歴史そのものが示しているところです。

今日でも起こりうる、あるいは現に起こりつつあるかも知れない多くの困難を回避し、あるいは克服する道も、また組合員の支持と参加によってのみ、はじめて可能になると思われます。私たちはこのことを肝に銘じておく必要があります。

創立三十五周年を迎えるにあたり、先人の足跡を尋ね、その苦勞を偲び、私たちの生協の歩んで来た道を振り返って更なる前進の糧とすると同時に、私たち生協に関する者は、私たち自身がささやかながら生協を通じて、愛する大学の伝統

の一翼を担っているのだということを深く自覚することが大切だと思います。

この小冊子が、そのためにいささかの寄与をなしうるとすれば、喜びこれに過ぐるものではありません。

京都大学生生活協同組合理事長 山口 巖

『ロシア原初年代記』1987年11月28日初版第一刷。

## ロシア原初年代記

### はじめに

ここに訳出した原初年代記ラヴレンチー写本はその冒頭の言葉によってまた「過ぎし年月の物語」とも言われるが、これは一八四六年に出版された「ロシア年代記全集」の第一巻に収められていた。これはその後カールスキーによって一九二六年に新たに校訂されたテキストによって出版され、更にチホミロフによって一九六二年に復刻された。これが今回の底本となったものである。「ロシア年代記全集」は時の皇帝ニコライ一世の勅令によって編纂され、その第一巻がいま述べたように一八四六年に出版されたのであるが、これは革命の後も継承され、現在の三十七巻に及んでいる。真に国家的な事業である。

原初年代記がその第一巻に収められていることから容易に推察できるように、これは諸年代記のうちで最も資料的価値の高いものである。それはこれがロシアの地で最初に成立したキエフ国家について、その起源から説き起こした伝存する最古の年代記だと言うだけではなく、その内容においても伝説あり、戦記的部分あり、物語的部分あるいは神学的部分ありというように、真に古代ロシアの百科全書とも言うべき多彩さと内容の豊かさを誇り、また文学的香気にも富んでいる、第一級の文献であるからに外ならない。この原初年代記を抜きにしてはロシアの古代について語ることはできないといっても過言ではない。